

## 空間領域感に関する日韓比較研究： 指示代名詞の指示領域をもとにした考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 啓史, 野沢, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1446">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1446</a>

空間領域感に関する日韓比較研究  
－指示代名詞の指示領域をもとにした考察－

Japan – Korea Comparative Study on Spatial Domain Feeling.  
Consideration based on the indication area of demonstrative  
pronouns.

공간 영역감에 관한 한일 비교 연구  
지시 대명사의 지시 영역을 바탕으로 한 고찰

小 西 啓 史\*  
KONISHI, Hiroshi

野 沢 久美子\*\*  
NOZAWA, Kumiko

## 要 約

われわれは自分を取り巻く空間をいくつかの領域に分けて認識している。他者とコミュニケーションをとる際にはこのことがより鮮明になる。“自己領域（自分の空間）”、“他者領域（相手の空間）”、“第三者領域（それ以外の空間）”という3つの空間の分節が生じる（小西・北岡・荒井・中屋,2000）。

前報（小西・野沢,2019）では日本人大学生を対象に、コミュニケーションにおける認知空間の分節を明らかにすることを目的として調査を行った。その結果、物理的境界がなくても自己領域、他者領域、第三者領域という3つの空間領域が明確に認識されていること、自己領域は座席配置が変わっても広さ・形状ともに安定しているが、他者領域や第三者領域は座席配置によって広さも形状も大きく変化することが明らかになった。

本研究では、同様の手続きを用いて韓国人大学生を対象に調査を行い、日韓の比較をすることを目的とした。

\* 人間科学研究所研究員／人間科学部人間科学科教授

\*\*平成17年度武蔵野大学大学院人間社会・文化研究科修士課程修了

調査対象者は大学生100名(男性33名、女性67名)であった。領域感を測定する方法として指示代名詞法(小西ら,2000)を用いた。また、対面、並列、対向の3つの座席配置を用意し、それぞれの配置における指示代名詞の指示領域を調べた。

その結果、韓国人においても3つの空間領域が区別されていること、またそれぞれの領域の広さは座席配置が異なっても比較的安定していることが明らかになった。日本人と比較すると、韓国人は自己領域が広く、相対的に他者領域が狭いことが、日本人は自己領域が狭く、他者領域が広いことが明らかになった。

**キーワード：**空間領域、空間分節、自己領域、指示代名詞、日韓比較

## 요약

우리들은 자신을 둘러싼 공간을 몇 가지 영역으로 나누어 인식하고 있다. 타인과의 의사 소통을 할 때 이것은 보다 더 분명해진다. “자기 영역 (자신의 공간)”, “타인 영역 (상대방의 공간)”, “제삼자 영역 (그 이외의 공간)”이라는 3 가지 공간의 분절이 생긴다 (고니시·키타오카·아라이·나카야, 2000).

고니시·노자와 (2019)는 일본인 대학생을 대상으로, 커뮤니케이션에 있어서의 인지 공간의 분절을 분명히 밝히기 위해 조사를 실시했다. 그 결과, 물리적 경계가 없어도 자기 영역, 타인 영역, 제삼자 영역이라는 3 가지 공간 영역이 명확하게 인식된다는 것과, 자기 영역은 좌석 배치가 바뀌어도 넓이·모양 모두 안정되어 있지만, 타인 영역이나 제삼자 영역은 좌석 배치에 따라 넓이도 모양도 크게 변화한다는 것을 알 수 있었다.

본 연구에서는 동일한 절차를 이용하여 한국인 대학생을 대상으로 조사를 실시하여, 한국과 일본의 비교를 하고자 했다.

조사 대상자는 대학생 100명(남성 33명, 여성 67명)이었다. 공간 감각을 측정하는 방법으로는 지시대명사법(고니시 등, 2000)을 사용했다. 또한 대면, 병렬, 맞은편의 3 가지 좌석 배치를 준비하여, 각각의 위치에서 지시대명사의 지시 영역을 조사했다.

그 결과, 한국인에게 있어서도 3 가지의 공간 영역이 구분되어 있으며, 또한 각 영역의 크기는 좌석 배치가 다르더라도 비교적 안정적인으로 나타났다.

일본인과 비교하면, 한국인은 자신의 영역이 넓은 반면 상대적으로 타인의 영역이 좁다는 것을, 일본인은 자신의 영역이 좁은 반면 타인의 영역이 넓다는 것을 알 수 있었다.

**키워드：**공간 영역, 공간 분절, 자기 영역, 지시 대명사, 한일 비교

## 問 題

日本人と韓国人はさまざまな点で共通していることが知られているが、同時に異なる点も指摘されている。小西・野沢（2017）は、空間に対する捉え方に着目し、空間イメージに関する日韓比較を行っている。ここでは、「前：앞」、「後ろ：뒤」、「真ん中：가운데(중앙)」、「端っこ：가장자리」、「隅っこ：모서리」という空間表現語であらわされる5つの空間領域に対してもつイメージについて調査が行われた。その結果、全体的には共通した傾向が認められたが、韓国人は「前」「真ん中」に対して活動的イメージを日本人よりも強くもっており、これら空間に対する肯定的なイメージにつながっていた。また、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」に対しては不活発で消極的なイメージをもっており、それが強い否定的イメージにつながっていた。一方、日本人も韓国人と同様に「前」「真ん中」に対しては活動的なイメージを、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」に対しては韓国人以上に不活発で消極的なイメージをもっていたが、それら空間に対して必ずしも否定的なイメージだけをもっているわけではなかった。この点で両者に大きな違いがあった。昨今の日本での「隅っこブーム（朝日新聞,2014）」についてもこの点から理解が可能である（小西・野沢,2016）。

小西・野沢（2019）は2者間でとられる空間配置の型（座席配置）によって指示代名詞（コレ、ソレ、アレ）の指示領域がどのように影響を受けるのかを明らかにすることを目的として調査を行った。そこで用意された仮説モデルは Figure 1 に示すとおりである。すなわち、近称である“コレ”で示される領域は自己領域（自分の空間）、中称である“ソレ”で示される領域は他者領域（相手の空間）、遠称である“アレ”で示される領域は第三者領域（それ以外の空間）を示すものであると考えられる。その結果、対象が置かれた位置によって使われる指示代名詞が異なっており、物理的境界（地理的照合点）がなくても自己領域、他者領域、第三者領域という3つの空間領域が明確に認識されていることが明らかになった。また、自己領域は座席配置が変わっても広さも形も比較的安定していたが、他者領域や第三者領域は座席配置によって広さも形も大きく変化することが明らかになった。

本研究では、これらの結果をもとに日本人と韓国人の空間領域感の比較を行うことを目的とする。

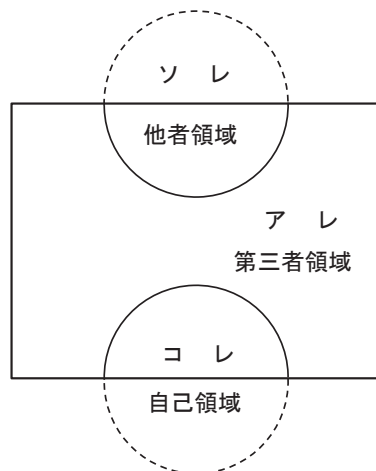


Figure 1 指示領域モデル

## 方 法

**調査対象者** 大韓民国ソウル特別市の中央大学校学生 121 名（男性 37 名、女性 84 名）が調査に参加した。比較する前報では武蔵野大学人間科学部人間科学科の学生 105 名（男性 21 名、女性 84 名）が調査に参加した。

**呈示刺激** 矩形のテーブル（一般家庭で用いられるダイニングテーブルに多いサイズである 130cm × 80cm を想定した。実際に調査用紙に描かれたのは 10cm × 5cm である）の長辺部にそれぞれ 2 脚、計 4 脚の椅子が配置されていることを想定した図を用意した。ここに 2 人の人間が座っているものとし、自分が<sub>ナ</sub>で、相手が<sub>サ</sub>で示された。2 人の座る位置、すなわち座席の配置は“対面”“並列”“対向”の 3 つである。

短辺を 7、長辺を 12 に分割し、それを組み合わせることで計 84 ポイントがテーブル上に用意された。個々の対象者へは、短辺部 1～7 それぞれにおいて長辺部 1～12 のうちから 1 ポイントをランダムに選び、テーブル上に示した。すなわち、7 つの指示ポイントが各座席配置に示された（Appendix 2. 回答例を参照）。

**手続き** 調査は授業終了後に調査用紙を一斉に配布する方式で実施した。対象者には、テーブルに自分ともうひとりの人が座っていると考えるように教示した（<sub>ナ</sub>は自分が座っている席、<sub>サ</sub>は相手が座っている席）。そして、テーブルの上に示した番号（①～⑦）のところに物が置かれていると想定し、それを相手に指し示すときに、“이것 (コレ)” “그것 (ソレ)” “저것 (アレ)” のうちどの指示代名詞を使うかを答えるよう求められた。個々の参加者に与えられたのは 1 枚の用紙に 3 つの座席配置（対面、並列、対向）が描かれており、それぞれの配置につき 3 パターンの物の配置を示した計 3 枚の調査用紙である。それぞれの座席配置に指示対象地点として 7 ポイントが示されており、合計 63 個（7 ポイント × 9 座席配置）の対象に対して、どの指示代名詞を使うかが尋ねられた（Appendix 1. 教示、Appendix 2. 回答例を参照）。

## 結 果 と 考 察

121 名のデータの中から欠損のある回答と留学生 16 名の回答を除き、103 名（男性 33 名、女性 70 名）がデータ分析の対象となった。前報との比較のためこれらの中から 3 名のデータをランダムに選んで除外し、最終的には 100 名（男性 33 名、女性 67 名）のデータが分析の対象となった。なお、前報では、105 名のデータの中から欠損のある回答を除き、最終的には 100 名（男性 18 名、女性 82 名）のデータが分析の対象となった。

84 か所ある指示ポイントはそれぞれ 25 名の対象者によって判断された。Figure 2 は、25 名中 15 名以上が選択したものをそのブロックの指示代名詞としてあらわしたものである。日韓の比較のために前報（小西・野沢,2019）で得られた日本人の結果も掲載した。

Figure 2 を見ると、どの座席配置においても 3 つの指示領域がかなり明確に区別されていることが分かる。これは、物理的境界（地理的照合点）がなくとも認知空間の分節が明確に生じることを示すものであり、小西ら（2000）、小西・野沢（2019）の研究結果とも一

致するものであった。

次に、指示領域の広さを想定されたダイニングテーブルのサイズをもとに1ブロック約120cm<sup>2</sup> (11cm × 11cm) として、各領域の広さを算出した。結果は Table 1 に示す。

**이것 (コレ) の示す領域** 自分を起点として、対面配置では 25 ブロック (3,000cm<sup>2</sup>)、並列配置では 22 ブロック (2,640cm<sup>2</sup>)、対向配置では 26 ブロック (3,120cm<sup>2</sup>) であり、3つの座席配置ともほぼ同じ面積であった。

**그것 (ソレ) の示す領域** 相手を起点として、対面配置では 19 ブロック (2,280cm<sup>2</sup>)、並列配置では 17 ブロック (2,040cm<sup>2</sup>)、対向配置では 18 ブロック (2,160cm<sup>2</sup>) であり、3つの席配置ともほぼ同じ面積であった。

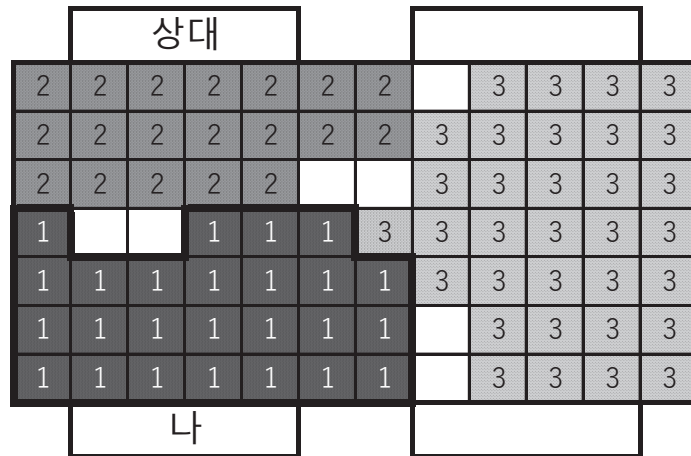
**저것 (アレ) の示す領域** 対面配置では 33 ブロック (3,960cm<sup>2</sup>)、並列配置では 37 ブロック (4,440cm<sup>2</sup>)、対向配置では 35 ブロック (4,200cm<sup>2</sup>) であった。対向配置では領域が2つに分割されたが面積は他の配置とほぼ同じであった。

“이것 (コレ)” “그것 (ソレ)” “저것 (アレ)” の示す領域は座席配置によって形は大きく変化した。広さはほぼ一定であった。これに対して、日本人では“コレ”の示す領域は座席配置が変わってもほぼ同じ広さであったが、“ソレ”アレ“は座席配置によって広さも形も大きく変化した。特に、“アレ”の指す領域が対向配置において著しく狭いが、これは“コレ”と“ソレ”、“コレ”と“アレ”との境界部分の判断が回答者によって異なったためにブロックの判断基準 (25名中15名以上が選択) に達しなかったことが理由である。

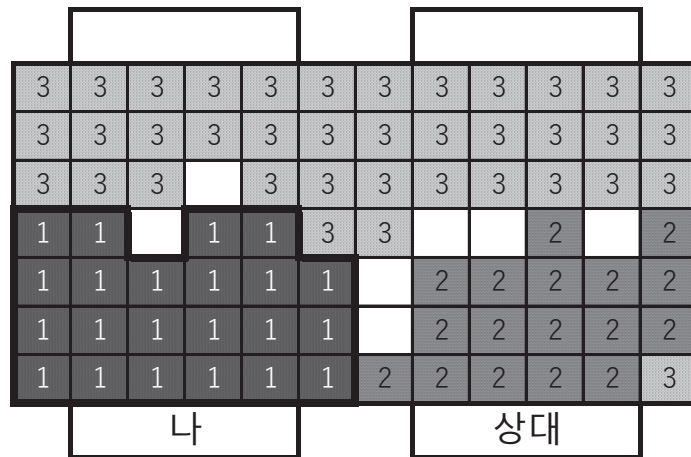
韓国人ではどの配置においても“コレ”の領域は“ソレ”の領域よりも大きかったが、日本人ではどの配置においても“コレ”の領域より“ソレ”の領域の方が大きかった。このことは、韓国人は自己領域が大きい、日本人は自己領域が狭く相対的に他者領域が大きいことを示している。この結果から、対人関係における自己意識のあり方が韓国人と日本人で異なることが推測されるが、今回の研究からだけでは説明できない。両国の文化や国民性の視点からの分析が必要であり、今後の課題としたい。

## 謝辞

本研究を実施するにあたり、質問紙の韓国語への翻訳、韓国語要約の執筆において適切なアドバイスを下さいました武蔵野大学教授이창규先生に心より御礼を申し上げます。調査の実施にあたっては韓国中央大学校教授김재희先生に大変お世話になりました。心より御礼を申し上げます。また、調査票の印刷やデータの収集において多大な尽力をいただいた中央大学校大学院의강웅희さんにもこの場をかりて御礼を申し上げます。



(1) 対面配置における指示領域



(2) 並列配置における指示領域

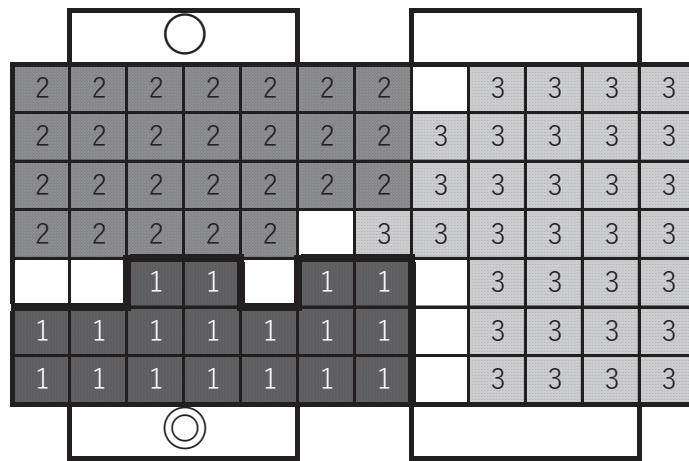


(3) 対向配置における指示領域

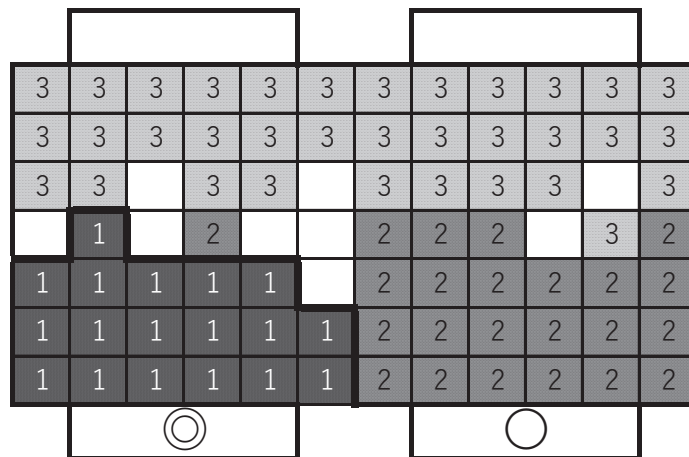
Figure 2-1 座席配置と指示領域 (韓国)

1 : 이것 2 : 그것 3 : 저것

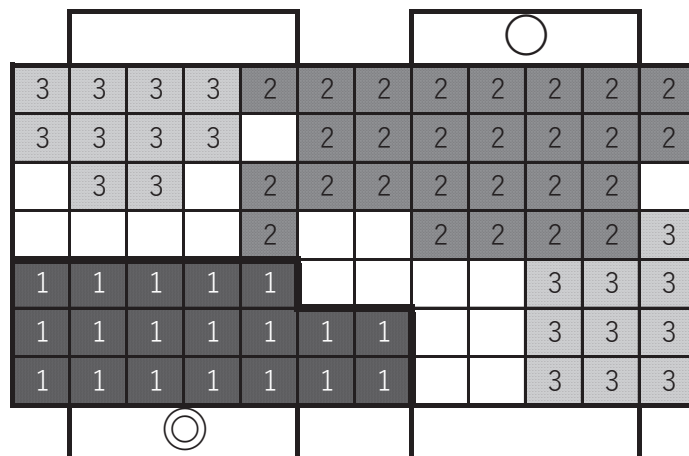




(1)対面配置における指示領域



(2)並列配置における指示領域



(3)対向配置における指示領域

Figure 2-2 座席配置と指示領域（日本）

1：コレ 2：ソレ 3：アレ



Table 1 指示領域の面積：日韓比較

	対面		並列		対向	
	韓国	日本	韓国	日本	韓国	日本
이것 (コレ)	25 3,000	18 2,160	22 2,640	18 2,160	26 3,120	19 2,280
그것 (ソレ)	30	21	26	21	31	23
저것 (アレ)	19 2,280	26 3,120	18 2,160	23 2,760	19 2,280	27 3,240
저것 (アレ)	23	31	21	27	23	32
저것 (アレ)	33 3,960	32 3,840	37 4,440	34 4,080	34 4,080	20 2,400
不明	39	38	44	40	40	24
	7 840	8 960	7 840	9 1,080	5 600	18 2,160
	8	10	8	11	6	21

上段：ブロック数

中段：面積 (cm<sup>2</sup>)

下段：全体における比率 (%)

引用文献

朝日新聞 (2014) 隅っこをたどって 2014年5月26日～6月6日 (夕刊)  
 小西啓史・北岡和彦・荒井理帆・中屋淑 (2000) 指示代名詞法を用いた個人空間の研究, 人間研究, 5,1-12.  
 小西啓史・野沢久美子 (2016) 空間イメージに関する研究—5つの空間領域 (前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ) からの考察— 武蔵野大学人間科学研究所年報,5,41-51.  
 小西啓史・野沢久美子 (2017) 空間イメージに関する日韓比較研究—5つの空間領域 (前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ) からの考察—武蔵野大学人間科学研究所年報,6,75-90.  
 小西啓史・野沢久美子 (2019) 指示代名詞の指示領域をもとにした空間領域感についての—考察 武蔵野大学人間科学研究所年報,8,35-42.

Appendix

1. 教示 (교시)

우리는, 사물을가리킬 때 「이것」 「그것」 「저것」 이라는 말 (지시대명사) 을 사용합니다. 이 조사에서는, 어떤 때에 이런 말을 사용하는지를 조사하려고 합니다.

3 페이지부터 5 페이지에 걸쳐, [1] 로부터 [9] 까지 9 가지의 장면이 제시되어 있습니다. 어느 것이나 다 직사각형의 테이블 (130 cm× 80 cm) 과, 그것을 둘러싸고 4 개의 의자가 놓여 있는 것을 상정하고 있습니다. 당신은 「나」 라고 씌어진 곳에, 그리고, 상대방은 「상대」 라고 씌어진 곳에 앉아 있다고 생각해 주십시오.

테이블 위 ①~⑦에는 물건이 놓여 있습니다. 그것들을 가리킬 때, 당신은 「이것」 「그것」 「저것」 3 가지의 지시 대명사 중에서, 어느 말을 사용합니까? 회답란에 있는 말 중에서, 자신이 사용한다고 생각되는 말을 선택해서 ○표를 해 주십시오.

다음 페이지에 회답 예가 제시되어 있으므로, 회답의 방법을 충분히 이해한 뒤에 질문에 회답해 주십시오.

2. 回答例

【회답란】

상대							
				①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
				⑥			
				⑦			
나							

①	이것	○	그것	저것
②	이것	그것	○	저것
③	이것	그것	저것	
④	이것	그것	저것	
⑤	이것	그것	저것	
⑥	이것	그것	저것	
⑦	이것	그것	저것	